

促成イチゴにおける新たな技術を導入した I P M の普及

ねらい

県内の促成イチゴの生産現場では、薬剤抵抗性を獲得したハダニ類の発生が問題となっており、その防除には多大な労力を要している。このことから、カブリダニ類を活用した I P M の取り組みが普及・定着しつつある。その一方で、近年農研機構等で新たにイチゴ、ナス等を対象とした天敵保護資材（バンカーシート）の利用技術が開発され、注目されている。

そこで、ハダニ類を総合的に管理するカブリダニ類と天敵保護資材の効果的な利用技術を関係機関と連携し、本県の生産現場への普及を支援する。これにより、過度の農薬使用を防ぐことで薬剤抵抗性の発達を抑制し、防除作業の労力軽減を図るとともに、安全安心かつ持続的で安定的な農業生産の実現を図る。

活動地域・対象

地域：県内全域（徳島市，阿南市，吉野川市，阿波市等）
 対象：イチゴ生産者

普及活動の目標

- 1 カブリダニ類と天敵保護資材の活用を主体とした新たな I P M 技術を確立します。
 - ・カブリダニ類と天敵保護資材の効果的な利用技術の確立
 - ・育苗中や本圃におけるハダニ類に対する農薬の効果的な使用技術の確立
- 2 上記 I P M を実践する生産者を育成します。

目標に向けた活動概要

1 実証展示ほの設置：カブリダニ類と天敵保護資材（右写真）を効果的に利用するため、薬剤体系プログラム（下表）を作成し、それを実践する展示ほを設置。展示ほにおけるハダニ類とカブリダニ類の発生密度を定期的に調査し、効果を分析。



天敵保護資材（バンカーシート）

2 指導者研修会の開催：普及指導員・JA営農指導員を対象にカブリダニ類の利用方法や薬剤体系プログラムを共有するため研修会を開催。

作成したカブリダニ類の利用を主体とした薬剤体系プログラム

3 技術の個別指導：カブリダニ類の利用方法や薬剤体系プログラムを指導するとともに、設置された展示ほの定期調査結果に基づき薬剤使用の選択等を指導。

4 成果報告会の開催：普及指導員・JA営農指導員・農薬メーカー担当者参集のもと、展示ほの実証結果の報告と評価。

	育苗期後半		育苗/定植		ビニル被覆					収穫				
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月				
ハダニ類	トクチオン乳剤を散布（可能であれば、2回散布）	定植前にアグリメックを散布 定植時にモヘントフロアブルを灌注処理 定植2週間後にクフオイル乳剤を散布	サフオイル乳剤、サンクリスタル乳剤等を1～2週間間隔で連続散布	バンカーシートによるミヤコカブリダニを放散（ミヤコバンカー100錠/10a）			発生があれば、ダニオーテフロアブル等で対応 後半：チリカブリダニを放散						発生があれば、粘着くん滅剤等の気門封鎖剤で対応	
アブラムシ類		定植時にモヘントフロアブルを灌注処理			発生があれば、チェス顆粒水和剤、ウララDF、粘着くん滅剤等の気門封鎖剤で対応									
ハスモンヨトウ	発生があれば、ベネビアOD、フレバソフロアブルら等で対応													
アザミウマ類						発生があれば、マツチ乳剤、カウンター乳剤等で対応						発生があれば、スピノエース顆粒水和剤、グレーシア乳剤等で対応		

※サフオイル乳剤には、展着剤を必ず加用する。

普及活動の成果

1 展示ほにおける実証成果

- ① 今回の薬剤体系プログラムを実践するとミヤコカブリダニを放飼する11月上旬までは、ナミハダニの発生密度をゼロにすることができました（図1，2）。
- ② 1月にナミハダニ密度が増加しても、放飼したカブリダニ類と選択性殺ダニ剤の1回散布により、その後少なくとも2ヶ月間、発生密度を低く抑えることができました（図1，2）。
- ③ 本技術の実践によりハダニ類に対する薬剤使用回数を大幅に削減できました。

2 新技術導入モデル農家の育成 R2年度：4戸



研修会開催の様子



成果報告会開催の様子

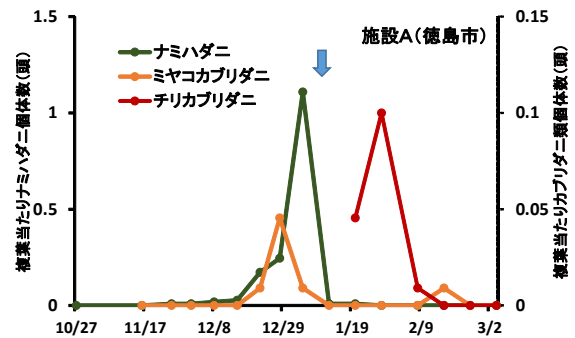


図1 施設Aにおけるナミハダニとカブリダニ類の発生推移

- 1) 品種：さちのか、定植：9/17
- 2) ミヤコカブリダニ：11/6放飼、チリカブリダニ：1/19放飼
- 3) 矢印：選択性殺ダニ剤の散布

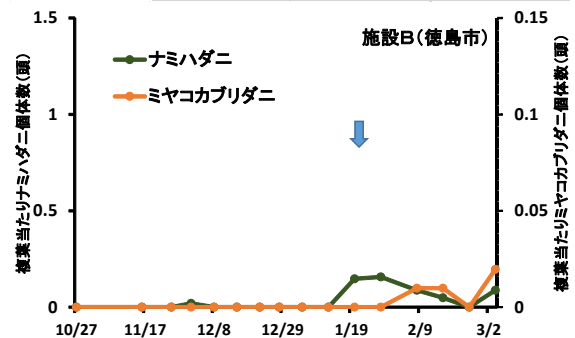


図2 施設Bにおけるナミハダニとカブリダニ類の発生推移

- 1) 品種：紅ほっぺ、定植：9/17,18
- 2) ミヤコカブリダニ：11/12放飼
- 3) 矢印：選択性殺ダニ剤の散布

用語
説明

天敵保護資材(バンカーシート)：カブリダニ類のパック製剤と組み合わせることで薬剤、降雨、散水に対する影響が軽減されます。また、シート内の産卵基質と保水資材によりカブリダニ類の生存に適した環境が作り出され、カブリダニ類が長期間放出されます。

今後の発展方向

今年度の展示ほの実証結果と薬剤経費をもとに薬剤体系プログラムをブラッシュアップし、低コスト、かつハダニに対して抑制効果の高い技術を目指します。また、その技術に関係者間で共有するとともに、実践する生産者を増やします。

関係者からの声

- ハダニに対する防除効果が高く、農薬の使用回数も大幅に減った(生産者)。
- ミヤコカブリダニを放飼するまでにハダニ密度がゼロになれば、同天敵の効果を十分に発揮できる(JA担当者、農薬メーカー)。

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922